センターだより
きずな
財団法人 岐阜県教育文化財団
文化財保護センター

ぎふの埋蔵文化財

48
2007.3.1

岐阜県の埋蔵文化財情報が満載

特集 「縄文時代の石器と石材」

報告 「こんなの出ました！ 2006発掘調査速報」

考古学教室⑨ 蹄（ひづめ）の轟（とどろ）き、大陸より響く

センター掲示板 大好評！DVD「発掘調査ってなあに？」

古墳時代の須恵器出土状況（関市　小洞遺跡）

特集「縄文時代の石器と石材」

岐阜県内の遺跡から発見された石器の石材を紹介します。

石器って何？

石器とは、石を割ったり、磨いたりして作った石の道具のことです。金属が利用される以前は、狩りに使う弓矢の先や、肉を切るために使うナイフや包丁のようなものまで石で作られていました。

弓矢の矢じり

木を伐る道具

土を掘る道具

木の実をすりつぶす道具

魚をとる網の錘

遠くから運ばれた石

揖斐川上流域にある旧徳山村（揖斐川町）の遺跡の発掘調査では、縄文時代の石器がたくさん出土しました。出土した石器の中には東京都の神津島や香川県の金山の石など200km以上遠く離れた場所の石で作られた石器があることが分かりました。どのようにして石が運ばれてきたのかは分かっていませんが、縄文人の道具に対するこだわりが窺えます。

黒耀石（こくようせき）

サヌカイト

徳山で見つかった石器の石材産地

石材に使われる石の特徴は？

岐阜県内の遺跡で発見された石器をみると、道具ごとに材料となる石の特徴が違うことが分かります。例えば、弓矢の先につける矢じりや肉を切るナイフはガラスのように鋭く割れる石、木を伐る道具は硬くて、磨くとツルツルする石、木の実をすりつぶす道具は表面がザラザラした石が好まれていたようです。その道具の使い道に応じて、石を選んでいることが分かります。

ガラスのような石で作った石器

石器に使われる石は？

石器の材料となる石は、集落の周りにある川原や谷、山の石を採っていたようです。特にガラスのように割れる石は採ることができる場所が限定されていたようです。

県内で産出する代表的な石には、下呂市の湯ケ峰に産出する下呂石、関市洞戸の阿部山に産出する流紋岩、一部の地域を除いて県内ほぼすべての地域に産出するチャートがあります。この3つの異なる石の石器を比べてみましょう。

今回紹介した石材産地・遺跡の位置

下呂石

表面は風化で白くなりますが、割れた面は黒いのが特徴です。湯ケ峰付近の遺跡では、下呂石製の石器が数多く見つかります。また、遠く離れた遺跡でも見つかることがあります。このことは、湯ケ峰の近くを流れる谷に落ちた下呂石が飛騨川によって運ばれ、それを利用したと考えられています。野笹遺跡では川原石のように丸くなった下呂石で作った石器がみつかっています。

湯ケ峰付近から出土した下呂石製の石器（下呂市　上ヶ平遺跡）

木曽川下流から出土した石器（美濃加茂市　野笹遺跡）

チャート

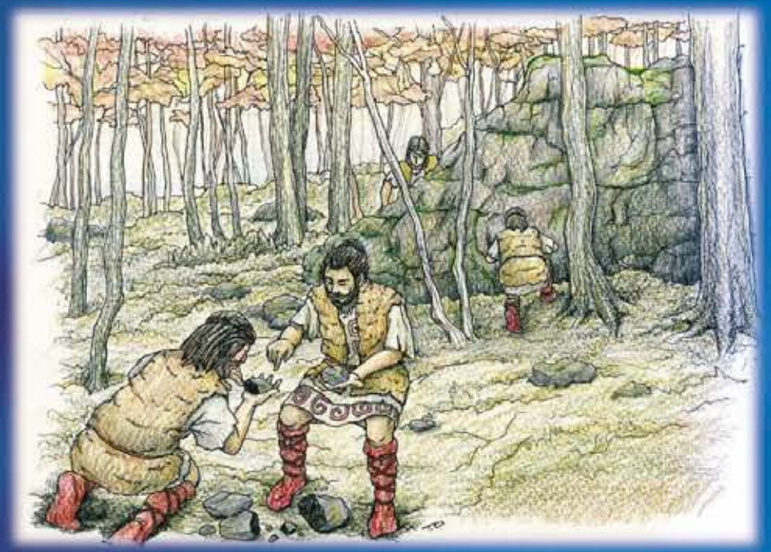
チャート製の槍の先（揖斐川町　小の原遺跡）

赤・白・黒など様々な色があります。非常に堅い石材で、縄文時代を通じて広く使用されました。

流紋岩

流紋岩製の石器（関市　高見遺跡）

表面は風化すると、白くツルツルになります。下呂石と同じく、割れた面は、黒いのが特徴です。



露頭で石を拾う　石の表面　が角張っているのが特徴です。

川原で石を拾う　石の表面は川で流されたために丸くなっています

こんなの出ました！2006発掘調査速報

今年度は県内の6遺跡で発掘調査を実施しました。調査で得られた成果の一部を「きずな」読者の皆様にお知らせします。

銅鐸の破片が出土！弥生時代の大集落か？（荒尾南遺跡　大垣市）

荒尾南遺跡は、大垣市西部にある、岐阜県では最大級の規模と想定される、弥生時代から古墳時代の遺跡です。
今回の調査で、銅鐸の破片や、弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓と呼ばれる墓や竪穴住居跡などを発見しました。

銅鐸は、農耕に関する祭りに使用されたと考えられる弥生時代の代表的な金属器です。発見した銅鐸の破片は、「飾耳」と呼ばれる、銅鐸の縁に付く円形の飾りの部分です。直径約5㎝、厚さ約2㎜の大きさで、両面に渦巻きの文様があります。弥生時代後期（1～2世紀頃）に製作されたと考えられ、近畿地方を中心に分布する「近畿式銅鐸」と呼ばれるものです。当時銅鐸を持っていたのは一定程度以上の規模の集落のみと想定されており、荒尾南遺跡の性格を考える上で貴重な資料となりそうです。岐阜県内での銅鐸の発見は、本例が7例目で、発掘調査での発見は初めてです。

出土した銅鐸の破片（飾り耳）

出土した破片から想定できる銅鐸の全体図

見つかった竪穴住居跡

竪穴住居跡の中からまとまって出土した土器

竪穴住居跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのもので、93軒を発見しました。住居跡のいくつかは、方形周溝墓の一部を壊すように造られていました。両者の新旧が分かります。

見つかった方形周溝墓

方形周溝墓の溝から出土した土器

長さ5～10m、幅1～2mの溝で四角く区切られた、方形周溝墓35基を発見しました。弥生時代中期のものと考えられ、溝から当時の土器が出土しました。当時の地表面は削られていたため、棺などの埋葬の痕跡は見つかっていません。

当時の集落の想像図（イメージ）荒尾南遺跡とは異なります

1,000年以上墓地として利用（小洞遺跡　関市）

小洞遺跡は関市広見字小洞地内の、山のやや急な北斜面にあります。調査で、弥生時代末から古墳時代初頭の方形周溝墓、古墳時代前期の小型方墳、古墳時代後期の円墳、鎌倉時代から室町時代の中世墓10基などが見つかりました。円墳からは、4つの木棺直葬（棺を土中に直接埋葬した）の埋葬主体部が見つかりました。主体部から鉄鏃などが、また付近からは、台付長頸壺・高坏・坏身など6世紀後半頃の須恵器約20点がまとまって出土（表紙参照）しました。県内では、6世紀後半には古墳の埋葬主体部には横穴式石室が導入されており、この時期の木棺直葬の古墳の発見は県内では非常に珍しいと言えます。中世墓の3基から蔵骨器（骨壺）や骨のかけらが見つかりました。出土した遺構や遺物から、長い間にわたって、この地が墓域として利用されていたことが分かりました。

古墳時代後期の円墳全景（西から）

出土した須恵器（台付長頸壺ほか）

飛騨の匠が作った？木製品が出土（野内遺跡　高山市）

野内遺跡は、高山盆地の北西の山麓沿いに広がる飛騨地方有数の大遺跡で、平成14年度から発掘調査を行っています。最終年度に当たる今年度の調査では、弥生時代から古墳時代、奈良～鎌倉時代の水田跡、古墳時代始め頃の竪穴住居跡などを確認しました。

中でも注目されるのは、水田跡から出土した木製品です。農具（ナスビ形鍬・ナスビ形四又鍬）、祭祀具（馬形代）、容器（曲物、曲物底板）、装身具（下駄）など多彩な木製品は、飛騨地方では最多の出土量です。これらの木製品を細かく見ていくことによって、木製品の年代が分かる可能性があります。また、当時の人々がどのように木材を利用していたかを知ることができます。「飛騨の匠」へ続く飛騨の木工技術の原点が解明されるかもしれません。

野内遺跡（C地区）全景（西から）

出土した木製品

戦国時代の山城跡を発掘（三枝城跡（みえだじょう） 高山市）

三枝城跡は、高山盆地の北西に位置する小山の頂(647m)を主郭（しゅかく）として築かれた山城跡です。今回の調査は主郭東側の尾根の部分を行いました。調査で尾根筋に沿って中世末期(戦国時代)と考えられる二つの曲輪（くるわ）（人工の平坦面）と、曲輪を分断する堀切（ほりきり）を確認しました。曲輪の北側には土塁（どるい）と横堀（よこぼり）が築かれ一部には帯曲輪（おびぐるわ）（主要な曲輪の周囲に巡らした平坦面）が巡っていました。北側全体に険しい切岸（きりぎし）(絶壁)が造られていたことも分かりました。また、曲輪からは川原石の集積を発見しました。これらの遺構から、この山城は北側の防御を重視した構造の城郭であることが分かります。

三枝城の北側の防御の堅さは、戦国時代頃の道との関係に注目すると理解できます。当時、高山盆地と古川盆地を結ぶ主要道は、三枝城のすぐ北を通り寿美峠（すみ）を越えて瓜巣（うりす）(高山市国府町)に至る道でした。曲輪はこの街道を監視する役目を担ったものであり、北側を重視した土塁や横堀、切岸は寿美峠を越えて迫り来る敵に備えたものと考えられます。そして、曲輪から発見されたこぶし大の川原石は、「つぶて」として攻め寄せる敵に投げつけるために準備されたものと考えられます。

調査地全景（東から）

こぶし大の川原石の検出状況（西から）

縄文～弥生時代の集落跡を発掘（中野大洞平遺跡（なかのおおぼらだいら）　飛騨市）

中野大洞平遺跡は、古川盆地の南西部の山すそに位置しています。縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、弥生時代末～古墳時代中期の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期の方形周溝墓1基、弥生時代後期以前の陥（おと）し穴状遺構1基などを発見しました。

縄文時代の竪穴住居跡では、床面中央に1.0m×0.7mの石囲炉を確認しました。炉石には、磨いた面が見られました。住居内からは、磨製石斧が5点出土しており、これらをこの炉石を使って磨いたと考えられます。住居跡内からは、北陸や信州の縄文土器に似た文様や器形の土器が出土しており、他地方との交流があったことが考えられます。

方形周溝墓は、平成14・15年度と今回の調査から、全体の形状が明らかになりました。盛土や埋葬主体部は確認できませんでしたが、周溝は四隅が切れていました。また、方形周溝墓の周溝に上面を削られた陥（おと）し穴状遺構を発見しました。その底部には、杭の痕跡と思われる小穴1基を確認しました。

方形周溝墓や陥し穴状遺構は、この遺跡の集落の中心から離れた緩斜面に位置しており、狩猟が行われていたり、墓域として使われていた時期があったことが考えられます。

検出した2軒の竪穴住居跡（手前と奥）（西から）

方形周溝墓の周溝と陥し穴状遺構（北から）

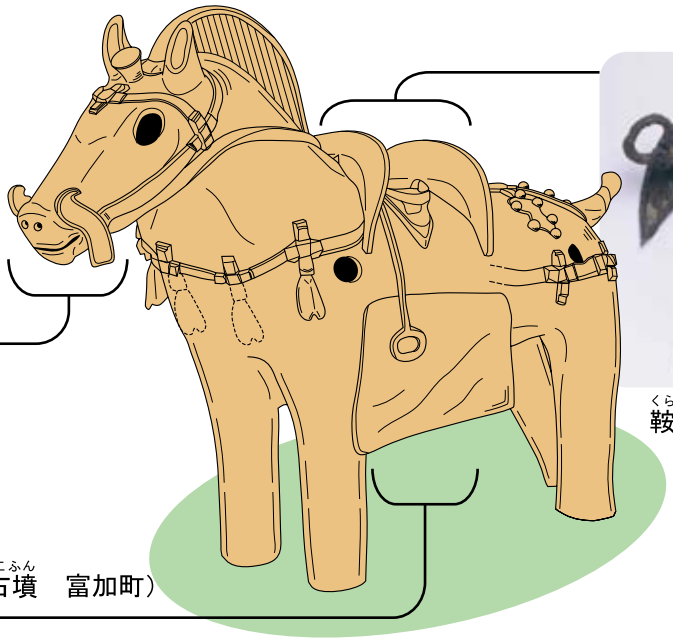
今年度は、上記の5遺跡と桧（ひのき）遺跡（大垣市桧町）の調査を実施しました。

考古学教室9

蹄の轟き、大陸より響く

澤村　雄一郎

轡（南高野古墳　池田町）



鞍金具（南高野古墳　池田町）

鐙（後平茶臼古墳　富加町）

当センターの発掘調査で確認した主な馬具
（模式図は外山３号墳（愛知県岡崎市）出土馬形埴輪より作成）

弥生時代は牛馬なし

日本に馬はいつから存在したのでしょうか。遺跡から出土した馬骨を科学的に分析した結果、いずれも古墳時代以降のものと判明しています。また、乗馬のために馬に取りつけられた馬具も、縄文時代や弥生時代の遺跡では確認できず、古墳時代以降の遺跡では確認できます。発掘調査の結果からは、縄文時代や弥生時代には馬はいなかったことが分かります。

「其地無牛馬虎豹羊鵲」。3世紀末、西晋(当時の中国を統一した王朝)の陳寿という人が著した『魏志倭人伝』の一節です。全文で約2,000文字。弥生時代終わり頃の日本（倭）の様子が記されています。この文を訳すと、「その地（倭）には牛、馬、虎、豹、羊、鵲といった動物はいない。」となります。文献にも、弥生時代の日本には馬がいないと記述されているのです。

乗馬の風習が伝わる

畿内のリーダーたちが乗馬の風習を取り入れたのは、5世紀前半頃のことです。彼らは中国大陸から馬と馬具を取り入れました。このうち馬具は、大仙古墳（伝仁徳陵）の陪塚である誉田丸山古墳（大阪府）、新開1号墳（滋賀県）などで副葬品として確認されています。

この時期の馬具は、金色に光り輝いた金銅装（薄い銅板に金メッキが施される。）の豪華な馬具です。これらは、畿内政権のリーダーたちが公式の外交ルートを通して中国から入手したものと考えられます。

乗馬の風習が伝わったわけは?

この時期に倭が乗馬の風習を取り入れたわけは、朝鮮半島北部を支配した高句麗の、広開土王碑に刻まれた碑文から読み取ることができます。4世紀末に倭と高句麗が戦ったこの戦闘は、馬を持たない倭の歩兵集団と馬を持つ高句麗の騎兵集団との戦いでした。倭のリーダーたちは、騎馬による戦闘技術に秀でた高句麗と戦い、騎兵の必要性を実感したと思われます。

そこで、当時朝貢関係にあった中国南朝（当時の中国は南朝と北朝に分裂）や百済などから、馬や馬具を取り入れたのです。飼育や調教の技術を持った人々も同時に渡来したと考えられます。そして、馬具は古墳に副葬されたので、我々は5世紀前半に馬具や乗馬の風習が日本に伝わったと知ることができるのです。

乗馬の風習の広がり

5世紀前半に導入された乗馬の風習は6世紀には全国に広がります。また、馬を飼育する牧場である「牧」も東国を中心とした各地で営まれます。

岐阜県では中八幡古墳（池田町）で5世紀中頃の馬具が見つかっています。新開1号墳の馬具とよく似ていることから、畿内政権との深い関わりが想像されます。

また、5世紀後半以降は県内各地の古墳で馬具が確認され、馬具が出土した古墳の総数は50基を超えます。たくさんの古墳から馬具が出土していることから、馬も相当数飼育されるようになっていたことが分かります。

引き継がれる乗馬の風習

中国及び朝鮮半島と日本との外交関係の中でもたらされた乗馬の風習は、日本に定着していきます。軍事面では、従来の歩兵のみによる戦闘から、より機動性に富む騎兵を加えた戦闘へと、戦いの方法が大きく変化したと考えられます。この騎兵と歩兵による戦闘方法は、古代から近世に至るまでの長い歴史の中で引き継がれていきます。

センター掲示板

大好評！DVD「発掘調査ってなあに？」

発掘調査を分かりやすく紹介したDVDを製作しました。今年度開催した特別展会場で多くの方に視聴していただきましたが、発掘調査や整理作業の様子がよく分かると大好評でした。ぜひ、歴史の教材や研修会資料として御活用ください。当センター職員が出向いての出前授業や講座と合わせて活用することもできます。県内の市町村教育委員会に配布しておりますが、当センターにお電話いただければ貸出等させていただきます。

DVDの内容
発掘調査の流れ　整理作業の流れ　主な遺跡の紹介
赤保木遺跡（高山市）の発掘調査成果
文化財保護センターの概要と教育普及事業の紹介

センター日誌

10/30（月）　東海環状自動車道推進連絡会議見学（荒尾南遺跡）
11/ 9（木）　美濃市教委・市内中学生3名小洞遺跡見学
11（土）　三枝城跡現地説明会実施（57名）
県政ふれあい会館ミニ展示「奈良時代の遺跡ってどんなもの?」（～12/28）
県政資料館ミニ展示
「古墳時代の遺跡でアッ発見!坂祝町東野遺跡」
15（水）　関市立瀬尻小学校6年生小洞遺跡見学（6名）
大野町中高年講座
「石器の話・勾玉づくり」講師派遣
17（金）　高山市立三枝小学校6年生
三枝城跡発掘調査見学（45名）
国際工芸学園学生野内遺跡出土遺物見学（6名）
飛騨市立古川中学校1年生出前授業（37名）
18（土）　荒尾南遺跡現地説明会実施（403名）
20（月）　桧遺跡発掘調査開始
25（土）　小洞遺跡現地説明会実施（178名）
29（水）　三枝城跡・桧遺跡現地調査終了
12/20（水）　小洞遺跡発掘調査終了
1/ 9（火）　整理作業仕事始め
17（水）　総合防災訓練実施
22（月）　荒尾南遺跡発掘調査終了
2/13（火）　ハートフルスクエアーGミニ展示
「ANCIENT MUSEUM ～いにしえの美術館～」（～2/26）
24（土）　県政資料館ミニ展示
「奈良時代の遺跡ってどんなもの?」（～3/30）
3/ 1（水）　発掘調査報告書発行
（野内遺跡A地区・塚奥山遺跡・東野遺跡）

三枝城跡を見学する三枝小の6年生の皆さん

あとがき

関市の瀬尻小学校におじゃまして、校長先生に小洞遺跡発掘調査現地説明会の案内をさせていただいたところ、次の日の放課後、6年生6人の子どもたちが発掘調査現場に来て、遺跡の様子をじっくり見学してくれました。うれしいことでした。現地説明会当日には、先生方や子どもたちをはじめ、地元の皆さんに見学いただき、準備した資料がなくなるほどでした。工事でなくなってしまう遺跡の様子を目に焼き付けていただいたことと思います。地元の皆さんの支えが大きな力になります。

Center News

ホームページ
http://www.maibun.gifu-net.jp

三田洞事務所
〒502-0003　岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550（代）FAX. 058-237-8551
e-mail：gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所
〒509-4122　岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784（代）FAX. 0577-72-4690
e-mail：hida@maibun.gifu-net.jp

PRINTED WITH SOY INK　R100 この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。